

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	河内長野市高齢者保健福祉計画等推進委員会
2 開催日時	令和元年7月30日(火) 午後1時30分～午後3時10分
3 開催場所	市役所 501会議室
4 会議の概要	1. 平成30年度介護保険事業の報告等について 2. 地域包括支援センターの事業運営状況について 3. その他
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	0人
7 問い合わせ先	(担当課名) 市民保健部高齢福祉課 地域包括ケア推進係 (内線 389)
8 その他	

\*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

令和元年度 第1回河内長野市高齢者保健福祉計画等推進委員会  
議事概要

〈文責：山内〉

日時：令和元年 7月30日（火）13:30～15:10

場所：河内長野市役所 501 会議室

【出席委員】 神部智司委員（会長）、外山佳子委員（副会長）、生地孝至委員、築瀬裕彦委員、吉村禎二委員、千田利勝委員、山田昭儀委員、浅井多紀委員、杉浦秀孝委員、前川佳子委員

【事務局】 東部市民保健部長

（介護保険課）上原課長、上田課長補佐、中尾係長

（高齢福祉課）中橋課長、山内課長補佐、中條係長、園山主査

（地域包括支援センター）

〈東部〉峯山建道、〈中部〉芦田さよこ、〈西部〉森田理栄子

◇平成31年4月人事異動により、事務局メンバーが一部交代したため、改めて自己紹介を行う。

## 案件1、平成30年度介護保険事業の報告等について

【事務局（介護保険課）から資料1-1及び1-2について説明】

【質疑応答】

（山田委員）

◇ 高齢化率が益々高くなっている中で、介護認定率が横ばいとの報告であったが、これは正に介護予防事業推進の成果が大いに現れているものと考えられる。特に、各地域で展開されている「元気アップ教室」や「コグニサイズ」など、参加される人が年々増加し、年間延べ6,000人は超えているように思う。

河内長野市の人口推計によると、2025年には高齢化率が37.7%になるとのことであり、今後も引き続き介護予防事業を推進し、介護認定率の上昇を抑制していただきたい。

（外山副会長）

◇ 高齢化率について、前期高齢者と後期高齢者の割合はどれくらいか？

（事務局）

- ◆ 前期高齢者が50.1%（昨年51.9%）、後期高齢者が49.9%（昨年48.1%）の割合であり、まだ若干ではあるが、前期高齢者の方が多い状況です。計画上では、今年度には逆転するよう見込んでいます。

（外山副会長）

◇ 居宅介護支援事業者や訪問介護事業者が減少しているが、市として適正な状況であると考えているか？高齢者が増加していく中で事業者が減少している状況は、介護が受けたくても受けられない事態にならないのか？

(事務局)

- ◆ サービス事業所の規模が様々であり、比較的大手の事業者については、撤退される状況は見られないため、現時点でサービスの担い手が不足しているとは考えていません。  
しかしながら、今後、高齢者の増加に伴い介護事業者が不足してくるという問題は、全国的な介護保険事業の共通課題であると認識しています。  
本市としても、介護人材の確保に関する対応について、今後の事業計画の中で検討していきたい。

(神部会長)

- ◇ 過去5年間の状況を見ると、認定率はほぼ横ばいであるものの、後期高齢者の認定率が今後高くなっていくものと推測される。こうした状況を市としてどう捉えているのか？  
例えば、前期・後期によって、それぞれサービス利用状況の違いなど傾向はあるのか？

(事務局)

- ◆ 加齢に伴い、要介護リスクが高まっていくため、後期高齢者の認定率や重度の方の割合が高くなっているのは、当然の結果と捉えています。今後、要介護度の高い後期高齢者が増加に伴い、施設サービスのニーズも高まるものと考えています。また、在宅サービスを含めた担い手の確保がやはり重要な課題であると考えています。

(神部会長)

- ◇ 先の質問と重複するが、この一年で減少した7件の居宅介護支援事業所の撤退の要因を何かご存知か？

(事務局)

- ◆ 今回の7件について、特に情報は得ていないが、ケアマネジャーは介護保険制度の要を担う役割であるため、居宅介護事業所の減少については、今後配慮していきたい。

(神部会長)

- ◇ 今後も特別養護老人ホームの増床の見込みはあるのか？

(事務局)

- ◆ 今のところありません。

(外山副会長)

- ◇ 自立支援や重度化防止に向けた取り組みについて、国から交付金が入ってくると聞いているが、河内長野市の状況は？

(事務局)

- ◆ 「保険者機能強化推進交付金」は、国から示された評価指標に基づき、自治体ごとの取り組み状況が点数化され、点数に応じて交付金が配分されるものであり、大阪府内において、本市は点数的に上位にいる状況です。

(千田委員)

- ◇ 介護保険サービスの受給状況として、男女別に見ると、男性に比べて女性の割合が圧倒的に高い要因は何かあるのか？

(外山副会長)

- ◇ 過去の会議においても、そうした状況について意見交換があったが…、その時の推測とし

ては、「男性の場合は、要介護状態となっても配偶者を妻や子等によって支えられていることが多いが、日常の家事等を支えていた女性が要介護状態となった場合には、夫や子どもによる支えだけでは困難であったり、既に配偶者男性が先に亡くなっていたり、という状況が多いのではないか。」ということであったよう記憶している。

(神部会長)

- ◇ 「地域密着型介護サービス」の給付状況を見ると、定期巡回型サービスを始めとしたほとんどのサービスが計画値を下回っている中で、通所介護が計画値を上回っている。このあたりの状況をどう捉えているか？

(事務局)

- ◆ 本市においては、全体的に通所介護サービスの利用が高い傾向がありますが、地域密着型サービスにおいて、特に認知症対応型通所介護サービスが計画時の見込みを大きく上回っている状況です。

(神部会長)

- ◇ こうした各サービス種別ごとの給付状況等を踏まえて、第8期計画における量的整備の検討を進めていただきたい。

(外山副会長)

- ◇ 今後、自立支援と介護予防が重要となっている中、総合事業の給付状況が計画値よりも下回っている点について、どう分析しているのか？

(事務局)

- ◆ 総合事業は、平成29年4月から新たに実施したサービスであり、本市においては、多様なサービス類型を設定しているところですが、新しい制度であったため、各サービスの利用者をどう割り振れば良いのかを見込むのが困難であり、結果的に従来からの「相当サービス」の利用実績が現状として多かったため、計画値とズレが出ている状況です。

(外山副会長)

- ◇ 給付実績値がほとんどマイナスとなっているが、必要な人が使えていないなど、利用者への制度周知が不足しているということはないか？

(事務局)

- ◆ 本資料は、サービス類型ごとの給付費決算状況であり、サービスの利用者数については、ほぼ見込みどおり推移している状況です。

制度改正に伴い、従前からのサービス利用者については、洩れなく総合事業利用へ移行が完了しておりますし、高齢者の伸び率ほどではないが、新規利用者もほぼ見込みどおり一定数増加しているため、広報不足のため利用者数が伸び悩んでいる状況とは考えていません。

現在、類型別の利用状況として、大半が従来型の「相当サービス」の利用に偏っているため、多様なサービスが計画値よりマイナスになっている、という実態です。

(神部会長)

- ◇ 現時点で、介護保険事業全体として、計画値に比べて決算額が約5億円ほど下回っているが、今後第8期の計画策定に向けて、各サービスの給付見込を精査することが必要と思わ

れるが、そのあたりについてはどのように考えているのか？

(事務局)

- ◆ 現在、第7期計画の中間年であるため、来年度を含む3年間の見通しを踏まえた上で、次の計画値を検討していきたい。

(前川委員)

◇ 基本的な質問で恐縮だが、「地域密着型サービス」の「定期巡回サービス」とはどういったものか？

(事務局)

- ◆ 夜間を含めた24時間対応の訪問介護サービスであり、本市では「あかしあ」1ヶ所が行っている。

(前川委員)

◇ そのサービスが50回計画していたが、3回しかなかったということか？

(事務局)

- ◆ はい。

(神部会長)

◇ それは純粹に、夜間・早朝のサービスのニーズがないということなのか？

(事務局)

- ◆ 現在、事業所を回って「定期巡回サービス」の取り組みについて意見を伺っているが、体制が整っていないため実施できないところが多く、新たな事業所を増やしていくことが困難な状況です。また、利用者へ制度のPRが不足している面もあると思われます。

## **案件2、 地域包括支援センターの事業運営状況について**

【各地域包括支援センター長から資料2-1及び2-2について説明】

【質疑応答】

(神部会長)

◇ 地域包括ケアシステム構築の要となる地域包括支援センターには、様々な役割りが期待されていますが、少ない人員の中で頑張っていて良くやっただいただいていると思います。

(千田委員)

◇ 3センターを束ねているのは、東部センターなのか？

(東部 峯山センター長)

- ◆ いいえ。

現在、河内長野市には基幹型センターはありませんので、横並びです。

(千田委員)

◇ 決算状況を見ると、東部が最も収益があるので、取りまとめているのかと思った。

(東部 峯山センター長)

- ◆ 市からの委託料の内容はどのセンターも同様です。

(千田委員)

- ◇ 様々な課題への対応が求められるため、人員確保をはじめ、センター運営上の問題もあるかと思われるが、特に今後増加が見込まれる認知症高齢者への支援・対応については、入所施設が不足していることもあり、非常に重要な課題になっているものと考えられるため、しっかりと取り組んでいただきたい。

(東部 峯山センター長)

- ◆ 人員確保については、担当地域の高齢者数の増加に伴う増員配置の委託料をいただいております。今のところ確保できている状況です。  
認知症高齢者の受け入れ施設については、昨今、サービス付高齢者住宅等が増えていることもあり、なんとか充足しているのではないかと思います。また、高齢者が在宅で生活されている限り、積極的な支援を行っていくことが我々包括支援センターの使命であると考えています。

(神部会長)

- ◇ 相談実績の状況報告にもあったとおり、認知症高齢者の対応件数が急増している中で「支援拒否ケースの対応」や「医療受診へ繋ぐことが困難なケース」等にどのように対応しているのか？

(西部 森田センター長)

- ◆ 様々なケースがあるが、まずは相談者とじっくり話をし、当事者とお会いできるような方法を検討し、いかにファーストコンタクトを行うのか、が重要なポイントと考えています。

(東部 峯山センター長)

- ◆ 3包括とも、「認知症初期集中支援事業」の委託を受け、今年度(令和元年度)からは、「認知症地域支援推進員」を各1名配置しているため、対応力も向上していると思われます。

(千田委員)

- ◇ 高齢者の引きこもりのケースも増加しているよう思う。民生委員協議会としても、こうした高齢者への声かけや安否確認活動に取り組んでいるが、認知症状のためか、対応が難しいケースが多くなってきているよう見受けられるので、ご近所や地域の人と連携して支援を進めていただきたい。

(築瀬委員)

- ◇ 西部包括センターが取り組んでいる「知っ得相談会」は、なかなか良いネーミングで、参考にさせていただきたい。  
薬剤師会としても、地域での相談支援活動に取り組んでいるが、やはり様々な情報を発信して、皆さんに知ってもらおう啓発の推進が重要であると感じている。

(吉村委員)

- ◇ 相談対応件数等の伸びを見ると、非常に良くやっていただいております。ありがとうございます。  
しかしながら、根本的な課題として、ただ数字の伸びを追うだけではなく、こうした支援

対象者がこの先もどんどん増加していかないように、我々はどう取り組んでいけば良いのかを考えていかなければならないと思っている。

例えば、認知症に関して言えば、ここ最近、地域住民の認知症に関する理解が進んできているよう思う。認知症家族を抱える人が、困りごとを発信し、それを「地域で」支え、助け合う基盤づくりが徐々に構築されてきている。

介護専門職などの「プロ」にお任せすることの一方、「地域住民」がお互いに支え合う体制づくりが重要であると考えている。

(神部会長)

- ◇ 今後も益々相談件数が増加していく中、相談対象者や相談内容等を検証し、専門職で解決するものか、地域の力で解決するものか等、役割りの整理を行っていくことが必要となってくるだろう。そのため、認知症理解の普及啓発をはじめ、地域との連携をさらに深めて事業を進めていただきたい。

(生地委員)

- ◇ 現在、歯科医師会の取り組みとしては、高齢者の嚥下・咀嚼機能のケアを進めている。口腔内の状態と健康状態には密接な関係性があると研究されているところであり、介護予防や長寿促進のために嚥下・咀嚼機能のケアにご理解をいただき、啓発していただければと思う。

(浅井委員)

- ◇ 保健所の立場としても、歯科衛生が適正な摂食に繋がると考えている。地域ケア会議などにケース検討に入らせてもらおうと、対象者の糖尿病の原因が歯が無いために適切な食事が摂れていなかったため、ということがあった。

医療・介護関係者の連携も進めながら、適切なケース対応をお願いしたい。

### 案件3、その他

(事務局)

- ◆ 第8期計画策定に向けた基礎調査の実施予定と、今年度の推進委員会の開催予定について、下記のとおり案内を行う。

〈計画策定に向けた基礎調査の実施〉

- ・国から示される指針に基づき、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」を秋～年内に実施する予定 ⇒ 一般高齢者・要支援者を対象に介護予防に関する調査
  - ・現在「在宅介護実態調査」を6月から順次実施中  
⇒ 要支援・要介護認定の人を対象に介護保険サービスに関する調査
- 〈次回計画推進委員会の開催予定〉
- ・上記調査の結果概要をご報告するため、来年1～2月頃に開催する予定。

(浅井委員)

- ◇ 今後、計画策定にあたっては、数値目標の設定が求められる傾向が強くなっている。  
次期計画では、施策・事業の推進方向の記載とともに、可能な限り数値目標も設定していただければと思う。

(神部会長)

- ◇ それでは、これにて第1回河内長野市高齢者保健福祉計画等推進委員会を終了させていただきます。

【終了 15:10】